

## 【INACOME】起業者と地域課題のマッチングプログラム 実施レポート

作成日：令和3年3月16日（再提出）

作成者：株式会社 Root 岸圭介

### ■属性

受入希望自治体：高知県北川村

地域課題テーマ：地域資源を活かした新たな事業の創出

マッチング起業者：株式会社 Root 岸圭介

### ■レポート内容

#### 1. 提案概要

<テーマ> 地域資源を活かした新たな事業の創出

<提案内容>

- ① 小中学生が地域の「いま」を、デジタルコンテンツとして全世界に向けて発信する『地域貢献型 ICT 教育プラットフォーム』
- ② スマート体験農園システム・スマート狩猟体験システムを活用した、新たな高付加価値体験サービスの開発と、地域農業の PR 及び、関係人口の拡大

## 2. 調査報告

### <調査スケジュール>

- 2月5日 : 今後の方向性と、現地調査についてオンライン打ち合わせ  
(高知県北川村 一般社団法人日本の農村を元気にする会代表理事(副  
村長教育担当) 野見山誉様)
- 2月22日① : 地域おこし協力隊&ゆず農園担い手の O 様と意見交換  
(野見山誉様)  
(O 様)
- 2月22日② : 北川村教育委員会様と意見交換  
(野見山誉様)  
(北川村 教育次長 N 様)  
(北川村 次長補佐 D 様)
- 2月22日③ : 土佐北川農園で、地域おこし協力隊&農園担い手 Y 様と意見交換  
(野見山誉様)  
(地域おこし協力隊 Y 様)
- 2月22日④ : 地元農業法人の後継者 K 様と意見交換  
(野見山誉様)  
(若手農業者 K 様)
- 2月22日⑤ : ハウスみょうが栽培の Y 様と意見交換  
(野見山誉様)  
(ハウスみょうが農家 Y 様)
- 2月22日⑥ : 地域活性化協議会の幹部三名と意見交換  
(野見山誉様)  
(地域活性化協議会の幹部三名)
- 2月22日⑦ : 北川村長と意見交換  
(野見山誉様)  
(北川村長様)

<調査結果の詳細>

**【2月5日】**

野見山様と、今後の方向性・進め方と、現地調査の予定や内容について、オンラインで打ち合わせを実施しました。

体験農園・狩猟体験のシステムを活用したスマート体験による農園と地域活性化に加えて、窓口である野見山様が教育委員会であることもあり、そのシステムを小中学生のICT教育に活用する案も出ました。ちょうど北川村では、全生徒へのChromebookを配布が完了しており、ICT教育の中身を充実させるアイデアを検討しているとのことでした。

打ち合わせの中で、小中学生が地域の「いま」を、デジタルコンテンツとして全世界に向けて発信する『地域貢献型ICT教育プラットフォーム』という案が出ました。

そのような教育への活用案は他に類似例のない独自色の強い取り組みであることから、現地調査では教育委員会と北川村で進めている小中学生の総合学習「北川学」を推進する地域活性化協議会との意見交換を軸に、いくつかの農園のヒアリングを行うことに決定しました。

この打ち合わせの後、

- 自分たちが取材した農園の「いま」を楽しく発信できるゲーム型ライブ配信
- 農業シミュレーションに活用できる、気象データによる分析システム
- ライブ配信以外にも北川村の様子を伝えることができるブログシステム

といった三機能を備えた北川学専用のポータルサイトのデモ『北川村ゆず物語』（仮）を弊社にて作成し、そちらをもとに現地調査でのヒアリングを行うこととしました。

■北川村ゆず物語（デモサイト）：<https://kitagawa.root-farm.net>

■北川村ゆず物語（デモ動画）：[https://youtu.be/iEpI3\\_ToUA0](https://youtu.be/iEpI3_ToUA0)

**【2月22日①】** 地域おこし協力隊&ゆず農園担い手のO様と意見交換（9:00~10:00）

O様に、スマートシステムを活用した体験農園サービス・狩猟体験サービスや農園PRによるファン獲得などを提案しました。

O様からは、運営するゆず農園の収入増の手段として検討したいが、システムの運用ができるか不安などの意見が出ました。

**【2月22日②】** 北川村教育委員会様と意見交換（10:00~11:00）

『地域貢献型ICT教育プラットフォーム』について意見交換を行いました。

まず、事前に準備してあった『北川村ゆず物語』のデモ動画・デモサイトを見せながら弊社の案を説明しました。

その後、教育委員会の皆様からシステムの利用方法の質問などを受け付けました。

また、総合学習の時間を活用して推進している『北川学』というプログラムの説明を

伺いました。北川学では、生徒自身が自主的に課題やツールを発見していくことを重視しており、デモサイトのようなツールを先生側から紹介し与えるという進め方はその趣旨にそぐわないのではないかという意見が出ました。

一方で、北川学の成果自体を発信する場として、また ICT 活用の実践的教育としてゲーム型ライブ配信機能は適しており、北川学の成果を多くの人に知ってもらう場としてポータルサイトを整備するのはその趣旨と相反しないという意見も出ました。

また今後の展開として、他の地域の学校とも連携し、お互いの発信を鑑賞しあうような仕組みで運営するとさらに ICT 教育の輪が広がることになるのではないかという案も出ました。

#### 【2月22日③】土佐北川農園で働く協力隊のY様と意見交換（11:00~12:00）

Y様には、スマートシステムを活用した体験サービスについて紹介しました。

その後、土佐北川農園のゆず畑を案内してもらいましたが、その圃場ではスマート農業の実証実験の場として、獣害検知システムや自動農薬散布ロボットなどのスマート機器が導入されていることが分かりました。

特に興味深かったのは、農業者の作業場所などの位置情報を自動計測してデータを蓄積し、勤怠管理などに使用している点でした。弊社のシステムは、農園の営みをデジタルコンテンツとして発信共有することをお手伝いするものですが、そこに農業者の作業負担が発生してしまうと活用のハードルが上がってしまいます。その意味では、「農業者が普段通りの作業をしていればそれが、ユーザーが楽しめるコンテンツになって配信される」という仕組みを作ることが究極的な目標でもあります。

農業者の自動位置情報取得はそのような、「農業者の負担なく農の営みを伝えるコンテンツ制作」につながるデータであり、ぜひこのデータを活用してみたいと考えました。

これらを念頭に、スマート農業の実証実験で蓄積されているデータにアクセスさせて頂くことができればそのコンテンツへの活用案を検討できるので、データへのアクセスが可能かを検討してもらうことにしました。（システム会社からの許可が必要な可能性あり）

#### 【2月22日④】地元農業法人の後継者K様と意見交換（13:00~14:00）

K様が導入しているハウス栽培用のスマートシステムの説明を伺いました。

映像データや水管理のリモートコントロール、生産情報のデータ蓄積などかなり高度な農業生産管理用のシステムが構築されていることが分かりました。

私からは、それら蓄積されているデータを求めている人（体験サービスならエンドユーザー）や業者（レストランなど）に適切に提供するシステムを制作できれば、付加価値をつけることができるのでは、と提案しました。

話を伺う中で、特に果樹農園向けの農業日誌で満足できるものがないという意見が出

ました。この点については、INACOME の本筋ではありませんが、弊社のシステム開発としてお役に立てる部分がありそうだとということで、別途野見山さまを通じて検討を続けることになりました。

**【2月22日⑤】ハウスみょうが栽培の Y 様と意見交換（14:00~14:30）**

ハウスでのみょうが栽培については、かなりの部分が特許などで守られていることもあり、その栽培の様子を体験サービスなどで公開していくことは難しいのではないかという意見を頂きました。

**【2月22日⑥】地域活性化協議会の幹部三名と意見交換（14:30~15:30）**

午前中に教育委員会と意見交換した『地域貢献型 ICT 教育プラットフォーム』『北川村ゆず物語（仮）』について、意見交換しました。

幹部の方からは、Facebook などの SNS での発信とどう違うかという質問がありましたが、SNS からのライブ等の発信はそのアカウントを持っていないと閲覧できないなどのハードルがあること、弊社のシステムは、子供たちの発想を実現すべくデータ分析の活用を始め、映像情報についてもかなりの部分をカスタマイズできることを説明しました。

また協議会の幹部でゆず農家の方からは、農園からのインターネットやデジタルツールを通じた PR は不可欠と認識しているものの農家でできる人は数少ない。このため、小中学生が教育の一環でその発信を手伝ってくれれば、まさに一石二鳥で喜ばしいことだという意見を頂きました。今回の現地調査では、農園の方がどのような反応を示すのかに注目していたので、心強い意見を聞くことができました。

一方で、小中学生の教育としてライブ配信を実施する場合、顔を映すのは NG か、配信対象は制限すべきか、などの個人情報に関する部分は配慮する必要があるという懸念が出ました。

**【2月22日⑦】北川村長 上村誠様と意見交換（16:30~17:00）**

『地域貢献型 ICT 教育プラットフォーム』『北川村ゆず物語（仮）』については、Chromebook を導入しこれからソフト面での ICT 教育を強化していく段階なので、ぜひ良いプログラムに練り上げてほしいと激励を頂きました。

また、地方にとって農業活性化は大きな課題でありチャンスであること、いつの時代も欠かせない農業生産を次世代の子供たちにとって魅力ある産業にすべく、新しいアイデアによる挑戦を共に行っていきましょうという方向性を共有しました。

#### <考察>

システム導入によるスマート体験サービスの運営については、運用が難しそうという印象を克服する必要があることを再確認しました。(現地調査①のO様の反応)

その克服の手段として、以下のような方向性に可能性があることが分かりました。

- 現地調査③のように既にスマートシステムが導入されているところではそこで蓄積されているデータをコンテンツに活用していく
- 現地調査⑥でゆず農家の方がおっしゃったように、若い人がシステムの運用部分を担っていく仕組みを工夫する(今回は、小中学生が教育の一環として行うという案)

また、④でヒアリングできた農業日誌への不満のように、農業分野でのシステム開発については様々な点で需要があると思うので、スマート体験農園システムの拡大にむけて活動する傍ら、そのようなニーズも補足して農業者のお役に立っていきたいと思いました。

### 3. 対象地域における今後の事業展開

『地域貢献型 ICT 教育プラットフォーム』『北川村ゆず物語(仮)』については、その母体となる『北川学』の来年度(2021年4月から)の方向性を教育委員会と学校で議論し始めた所とのことで、弊社の提案をどう活用できるか検討してもらうことにしました。予算・費用については、別途協議することとなっています。

スマート体験農園システムの導入については、今回意見交換した農園の中で活用についての要望があれば対応する準備を整えています。

また、K様のニーズを補足した農業日誌の開発については、野見山様から別途依頼を頂いている『農機シェアアプリ』というプロジェクトの中で解決にむけて動いていくことを確認しています。